

イタリアンライグラス「ライジン2」、「いなずまGT」および「フウジンSR」の熊本県における品種特性

「ライジン2」、「いなずまGT」および「フウジンSR」は、耐病性、収量性に優れており、また「ライジン2」は耐倒伏性にも優れていることから、いずれの品種も熊本県におけるイタリアンライグラスの品種として有望である。

農業研究センター畜産研究所飼料研究室 (担当者: 室原竜巳、石橋誠)

研究のねらい

本県におけるイタリアンライグラスについて、新たな優良品種の早急な普及を図る目的で、販売中もしくは数年以内に市販開始予定の新品種を中心に収量性やその他の諸特性について調査し、本県の奨励品種である「タチユウカ(早生)」および「マンモスB(中晩生)」を比較品種として、これと同等以上の能力を有する品種の特性を明らかにする。

研究の成果

1. 「ライジン2」、「いなずまGT」および「フウジンSR」の病害の発生程度は比較品種と同程度である(表1)。
2. 「ライジン2」は比較品種より耐倒伏性に優れ、「いなずまGT」および「フウジンSR」は比較品種と同程度の耐倒伏性が期待できる(表1)。
3. 「ライジン2」および「いなずまGT」は、比較品種と同等の乾物収量が得られ、「フウジンSR」では2番草で比較品種と比べ多収が期待できることから、本県におけるイタリアンライグラスとして有望である(表2、図1)。

※比較品種: 過去3年間の試験データに基づき、熊本県で奨励品種に指定されている品種

成果の活用面・留意点

1. 生育状況および収量については気象・土壌環境の変化による影響を受けるため、施肥管理や適正な時期における播種を徹底すること。
2. 倒伏した場合は、収穫時にロスが出ないように刈取速度を落として作業を行う。
3. 「ライジン2」および「いなずまGT」は10月中旬に播種した場合、比較品種に比べて1週間程度遅い4月中旬、「フウジンSR」は10月中旬に播種した場合、比較品種よりも9日早い4月下旬に刈取できる。

表1 イタリアンライグラスの3か年の生育および病害発生程度

	播種	発芽日	発芽 良否	定着			1番草 出穂期	播種～出 穂までの 日数	2番草 出穂期	倒伏程度	いもち病	
				1-9良	1-9良	1-9良						
早生	ライジン2	10/13	10/19	7	7	9	4/16 **	185 **	5/12	2 **	1	
早生	いなずまGT	10/13	10/19	7	7	9	4/18 *	187 **	5/9	4	1	
比較	早生	タチュウカ	10/13	10/19	8	7	8	4/9	171	5/7	5	1
中晩生	フウジンSR	10/13	10/19	8	8	8	4/22	190 **	5/22	4	1	
比較	中晩生	マンモスB	10/13	10/19	8	9	9	5/1	200	5/30	4	1

- 1) 数値は調査3ヶ年の平均値
- 2) *P<0.05, **P<0.01 (t-test)
- 3) 基肥はN : P₂O₅ : K₂O=11.5kg/10a
- 4) 試験区は7.2㎡ (1.8m×4.0m) 播種量は1.5kg/10aとし、1品種あたり3反復とした

表2 イタリアンライグラスの3か年の草丈および収量性

早晩生	品種名	草丈 (cm)		生草収量 (kg/a)			乾物収量 (kg/a)			
		1番草	2番草	1番草	2番草	総生草収量	1番草	2番草	総乾物収量	
早生	ライジン2	128.4	86.2	847.5	230.5	1078.0	121.9	34.3	156.2	
早生	いなずまGT	131.1	81.8	837.0	176.9	1013.9	118.7	28.2	146.9	
比較	早生	タチュウカ	131.6	89.7	865.0	225.3	1090.3	123.5	34.1	157.5
中晩生	フウジンSR	144.4	90.9	1002.3	303.8	1306.2	128.0	43.9	171.8	
比較	中晩生	マンモスB	141.7	90.9	853.2	267.7	1120.9	126.5	36.7	163.2

- 1) 数値は調査3ヶ年の平均値
- 2) 比較品種と試験品種間で有意差なし (t-test)

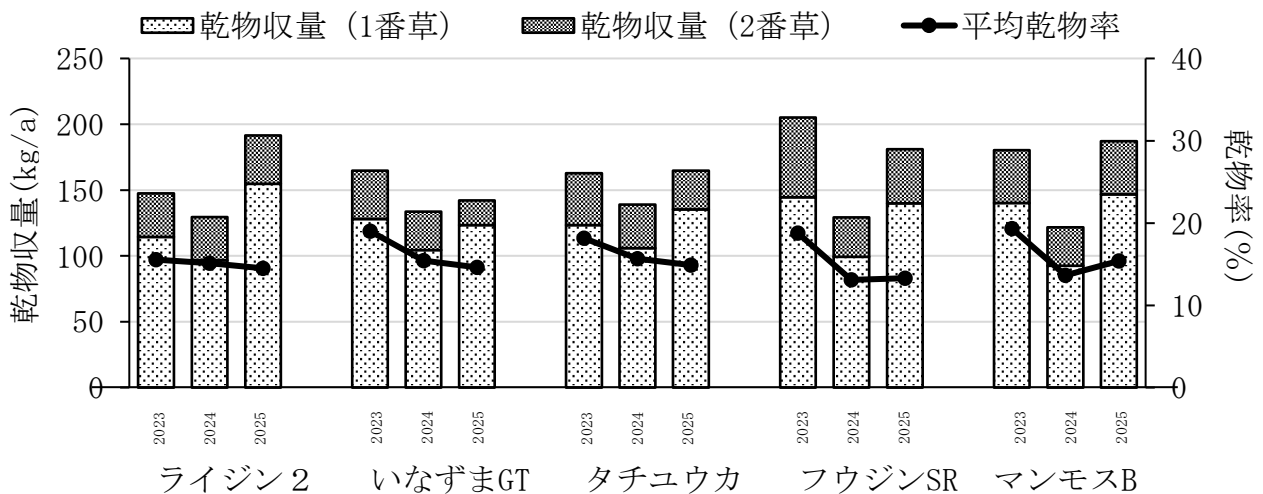


図1 品種ごとの3か年の乾物収量及び平均乾物率